

The Museum of Modern Art, Saitama



2016年11月23日(水・祝) ~ 2017年1月29日(日)

埼玉県立近代美術館

美術の歴史に革命をもたらしたキュビズム。対象を幾何学的にとらえて解体し、造形的な秩序に基づいて再構成する手法による革新的な様式でした。この展覧会では、1907年頃パリに発生し、パブロ・ピカソとジョルジュ・ブラックによって主導されたキュビズムが、日本においてどのように受け入れられたかを紹介します。

キュビズムが日本へ伝えられたのは、1910年代から20年代にかけてのこと。キュビズムを初めて本格的に探究した萬鐵五郎、パリに留学していた東郷青児、独自にキュビズムを消化した坂田一男だけでなく、通常はキュビズムとは結びつけられない前田寛治らの類似した作品は、この様式の日本での広がりを示しています。しかし、多くの画家は東の間の実験に手を染めた後、キュビズムから足早に立ち去りました。フォーヴィスムやシュルレアリスムと比べ、キュビズムは日本の画家によって深められることがなかったのです。

ひとたび姿を消したキュビズムの影響は、意外な場所で復活します。契機となったのは、1951年に東京と大阪で開かれたピカソの展覧会でした。1950年代前半、ピカソは日本の美術界に大きな衝撃を与え、その影響は洋画のみならず、日本画から彫刻、工芸といったジャンルにまで及んでいます。多くの作家がキュビズムの手法を取り入れながら、様々な主題の作品を制作しました。

この展覧会は、キュビズムが二度にわたって別々の文脈で日本の作家たちに受容された、という仮説に基づいて組み立てられています。世界的にみてもきわめて稀な日本におけるキュビズムの動向を、ピカソとブラックの作品、そしてそれらに触発された作家たちの作品により紹介します。

展 示 構 成

◆ 第一部：日本におけるキュビズム 1910s-1944

第一部では、戦前の日本におけるキュビズムの広がりをかえりみえています。日本で最初にキュビズム的な作品を手がけた例として、1910年代の東郷青児や萬鐵五郎、恩地孝四郎の作品を挙げるすることができます。

1920年代に入ると、フランスに留学してキュビストに直接教えを受けた矢部友衛、川口軌外らが登場しました。また、独自にキュビズムを消化した坂田一男や今西中通は、日本におけるキュビズムの展開を考える上で重要な存在といえます。さらに村山知義、柳瀬正夢、河辺昌久など未来派や構成主義と関わりが強い作家もまた、キュビズムを意識しつつ新興美術運動を推進していきました。

◆ 第二部：ピカソ・インパクト 1945-1960s

第二部で中心的に取り上げる 1950年代前半の美術を概観すると、ひとりの画家が日本の美術界全体に対して圧倒的な影響を与えたことに気づかされます。その画家とは、すなわちパブロ・ピカソです。

1940年代後半以降のキュビズム受容に際してまず参照されたのは、戦争の惨禍を描いたピカソ《ゲルニカ》の作風でした。戦後の日本では、ゲルニカ風のキュビズムが一種の流行のスタイルとして作家たちに取り入れられたのです。その影響は油彩画のみにとどまらず、日本画・彫刻・工芸といったジャンルを横断する形で、ピカソ風のイメージが広く受け入れられました。

◆ 出品作家および出品予定作品数

出品作家 89名 出品予定作品数 約160点

パブロ・ピカソ[10点]、ジョルジュ・ブラック、東郷青児、萬鐵五郎、古賀春江、柳瀬正夢、村山知義、仲田定之助、黒田重太郎、今西中通、川口軌外、坂田一男、三岸好太郎、前田寛治、難波田龍起、恩地孝四郎、小山田二郎、鶴岡政男、松本竣介、池田龍雄、阿部展也、佐藤敬、岡本太郎、山田正亮、吉原治郎、高山辰雄、下村良之介、三上誠、辻晋堂、林康夫、山田光など[各1~2点程度]

* 会期中に一部展示替えがあります。また、都合により展示内容を一部変更することがあります。

関 連 イ ベ ン ト

◆ レクチャー&ディスカッション「ピカソ・インパクトー1950年代の日本におけるキュビズムの影響」

12月4日(日)

【第一部】13:30~14:15 レクチャー:尾崎信一郎氏(鳥取県立博物館副館長)

【第二部】14:30~16:00 ディスカッション:池田龍雄氏(本展出品作家)×尾崎信一郎氏×建畠哲(当館館長)

2階講堂/定員:100名(当日先着順)/開場は30分前/料金:無料/内容:戦後間もない時期の日本におけるキュビズムの受容とその影響について、当時から第一線で活躍を続ける美術家・池田龍雄氏、1950年代の美術に通暁する尾崎信一郎氏、そして2005年に企画した展覧会「アジアのキュビズム」によって、各国でのキュビズムの展開を知る館長・建畠哲が語り合います。

◆ 上映会「メトロポリス」

1月15日(日)11:00～、15:00～の2回上映(開場は30分前)

2階講堂/定員:各回100名(当日先着順)/料金:無料

監督=フリッツ・ラング/1927年/ドイツ/90分/16mmフィルムによる上映/英語字幕(日本語のあらすじを配布)/内容:未来都市メトロポリスを舞台に、権力者の息子・フレージャーと労働者に希望を与える女性・マリアを通じて、階級間の闘争を描く。ヨーロッパで前衛芸術が隆盛した時代に制作されたSF映画の金字塔。

フィルム提供:かもめ座 FILM アーカイブ(<http://www.kamomeza.com/>)

◆ 担当学芸員によるギャラリートーク

11月26日(土)、12月24日(土)/各日とも15:00～15:30/2階展示室/企画展観覧料が必要です。

◎ ご希望のグループに「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」の見どころをご案内します(予約制)。

お問い合わせ・ご予約は、電話 048-824-0110 教育・広報担当まで。

展覧会情報

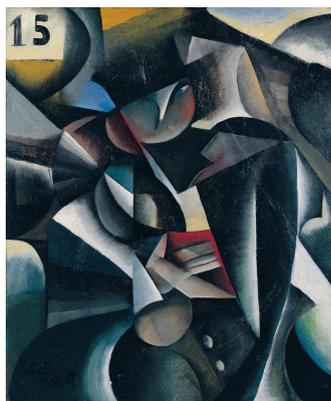
- 1 会期 2016年11月23日(水・祝)～2017年1月29日(日)
休館日:月曜日(1月9日は開館)および年末年始(12月26日～1月3日)
- 2 開館時間 10:00～17:30(展示室への入場は17:00まで)
- 3 観覧料 一般1100円(880円)、大高生880円(710円) ()内は20名以上の団体料金
※ 中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添いの方1名を含む)は無料です。
※ 併せてMOMASコレクション(1階展示室)もご覧いただけます。
◎ 本展チケットの半券で『風景との対話』展【11月26日(土)～12月25日(日)損保ジャパン日本興亜美術館(東京・新宿)】の観覧料が100円引となります。※他の割引との併用はできません。
- 4 会場案内 埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1 Tel. 048-824-0111
JR京浜東北線北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅まで、それぞれ約35分。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。
- 5 主催 埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 6 協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
- 7 協力 日本通運、JR東日本大宮支社、FM NACK5
- 8 お問い合わせ 埼玉県立近代美術館 担当: 五味、平野
広報・写真に関するお問い合わせ: 落合 kouhou@aria.ocn.ne.jp
Tel: 048-824-0111(代表)、048-824-0110(学芸) Fax: 048-824-0118

◎ 本展は、以下の会場に巡回します。

鳥取県立博物館 2016年10月1日(土)～11月13日(日)

埼玉県立近代美術館 2016年11月23日(水・祝)～2017年1月29日(日)

高知県立美術館 2017年2月12日(日)～3月26日(日)



1



2



3



4



5



6



7

◆ キャプション・クレジット

1. 東郷青児《帽子をかむった男(歩く女)》1922年 名古屋市美術館
2. 萬鐵五郎《もたれて立つ人》1917年 東京国立近代美術館
3. 仲田定之助《首》1924年 東京国立近代美術館
4. 池田龍雄《十字街》1952年 練馬区立美術館
5. 岡本太郎《まひるの顔》1948年 川崎市岡本太郎美術館 公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団
6. 吉仲太造《生きもの H》1955年 板橋区立美術館
7. 鶴岡政男《夜の群像》1949年 群馬県立近代美術館

- ・写真はデータにて提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・落合）まで。
- ・写真を掲載する場合、上記キャプション・クレジットを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようお願いいたします。
- ・掲載誌を3部、広報担当までお送りください。